

# 人権だより

2021.2

大洲高校人権委員会



1月22日実施のホームルーム活動について、人権委員の感想を一部紹介します。1年生は「部落差別の起こり」をテーマに、中世から近世の歴史を学習しました。2年生は「戦後の解放運動」を中心に学び、4回ある歴史学習の総仕上げにしました。



## 1-1

差別を受けていた人が、生活必需品を支える職業に従事し、人々の生活には欠かせない存在になっていたのだと思います。……

差別を受けた人は、社会の厳しい差別の中でも自分たちの生活を守るために闘い、とても強い人だと思いました。



## 1-2

「又四郎こそ人間である」という言葉に込められた思いなどをクラスで話し合いました。又四郎の心の芯の強さが分かりました。……

部落差別など今でも問題となっている差別は多く、それらの差別がなくなるように、自分たちにできることをやっていきたい。



## 1-3

「差別されている人々は、何か悪いことをしたわけではないから差別されるのはおかしい。」という意見が出ました。……

これからも部落差別についても詳しく知り、正しい知識をいろいろな人に広め、理解していってもらうと思う。



## 1-4

部落差別の歴史について学ぶ中で、現在の差別との違いや類似点について考えました。……(未知のものに対する不安や恐怖から起こる偏見や差別)これは現在のコロナウイルス感染症におけるエッセンシャルワーカーに対する差別と類似しています。



## 1-5

差別を受けながらも社会に大きくかかわる仕事をしていて、差別に屈することなく、世の中に素晴らしい文化を残してくれました。

……差別に負けずに頑張ってきた人々のことを知り、差別について正しく理解し、差別をなくしていかなければいけないと思いました。



## 2-1

今も識字学級で学ばれている、吉田一子さんを主人公にした絵本を見ました。……文字が分からなかった苦しさ、文字の読み書きができるようになった嬉しさなどが書かれていて、日本国憲法により、平等に人間らしく生きる権利は誰にもあるんだということを忘れてはいけないと思いました。



## 2-2

文字を学ぶことがどれだけ大切なのかを考えさせられました。……「私の歩んだ道」と「夕やけがうつくしい」を読み、2つの文中には共通して「これからも勉強を続けたい」という内容が書かれていました。勉強をすることで世の中が見えてくるので、これからも人権問題について学びたいです。



## 2-3

……今年度は人権の歴史について学ぶことができました。過去の過ちや失敗を学び、それをこれから先に、どう活かしていくのかが大切だと思います。ホームルーム活動では、どの班も人権の歴史についてしっかり話し合い、考えているのを見て、とても有意義な時間になったと感じました。



## 2-4

……文字の読み書きが生きていくうえでいかに大切なのかを知ることができました。文字の読めないような日が続いていくと、自分に自信がなくなっていくように思います。文字を習って夕日を初めて奇麗だと思えたとき、……それまでの苦労は計り知れないと思います。



## 2-5

……北代色さんが文字を学んで奪い返したものは何かを、班で考えました。それは「意欲・自信・心・人権」といった大切なものだと思います。……差別解消のために何が必要か考えました。一人一人が人権を尊重し、互いに認め合い、支え合っていくことが大事だと思います。

## 第28回 人権集会

2月5日に Zoom で開催した人権集会をの感想を紹介して振り返ります。



- 「相手がされて嫌なことはしない」を常に念頭に置き、自分さえ良ければいいという考えを捨て相手のことを考えながら生活していきます。
- **自分は言ってもいいと思っていても相手は嫌だったにして、知らぬ間に相手を傷つけていることが私にもあったと思います。……**
  - 「自分には関係ない」「学んだところで別に…」という自分がどこかにいました。けれどそれではだめだと思います。……
  - ▶ 無意識の偏見をなくしていきたい。そのためにあらゆることに疑問の目を向けていきたい。
  - ひとつの誹謗中傷をパンチか蹴り一発だとすると、100人、1000人と増えていくと、とても耐えられない……。
  - ▲ いじめや差別をなくすには、自分ではなく相手を基準にして考えることが大切なんだ……。
- **人権文化とは、だれもがバカにされず、すべての人が命をいつくむ社会であり、それは希望の文化である……。**
- ▽ **人権作文を聞いて涙が出てきました。……「家にいたくない」なんて子どもに思わせることのないようにしたい。**
- ◆ いじめは被害者周辺の人達にも影響を及ぼします。いじめは犯罪です。これからの人生それを踏まえたうえで生きていきたい。
  - 私は「想像すること」が差別をなくす近道なのではないかと考えました。
  - ▲ 命を正しく燃やすこと、幸せに感謝して生きること。これは立派な文化であり、……
  - ……自分の身に危険が感じられるときは、「逃げる」ことも重要なことだと思いました。……
  - 欲・見栄・ごまかしだけで自分と周りとの関係を築いていくことはとても情けないことだと思いました。
- ◆ **「被害者を独りぼっちにしない」ということは、自分も被害者にされてしまうかもしれないことで、勇気のある行爲だと思う。そんな時、迷わず味方になり助けることができる人間になりたい。**
- ◆ 私には差別を考えるうえで一番恐れていることは、無意識に偏見を持っているかもしれないということです
- ◎ **人が生きていくためには、支え合うことが必要なら、このつながりを強めていくことが大切なのだと思います。**
- ▽ **人間の尊厳とは、尊く、おごそかで、気高いこと、人間を大切にすることだとしました。**
  - 差別をなくそうと動いている人たちがいる事も事実です。……一緒にあって差別をなくしていこうとする働きが大切だと思いました。
- 「寿命」は命を寿ぐと書く、と聞いた時、寿ぐことの意味も踏まえ、深い意味があると知ったとたん、鳥肌が立ちました。
- ▲ 「ことほぎの心」という言葉はピンクやオレンジで柔らかく包み込まれているイメージがします。

### コラム

## Congratulations!

3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。3年生にとって最後の人権だよりにになります。文字ばかりになりましたが、読んでみてください。



戦後間もなく、ニューヨークに日本の若い女性が留学していました。しかし結核になり、当時アメリカでその治療では屈指のモンロピアサナトリウムに長期入院が必要になりました。そこはニューヨークから列車で5泊、しかも特急が止まらないためロサンゼルスから引き返さなければならない街で、病人にとって過酷な移動時間です。

列車に乗って3日目、留学生仲間がカンパした所持金も、食べ物もなくなり、車掌さんにジュースだけを頼みました。車掌さんは「あなたは病気だね」と尋ね、お金をもらわずに立ち去りました。次の日もジュースやサンドイッチを持ってきました。そして彼女の旅の目的を聞いてきました。その後の車掌さんは、ワシントン鉄道局にかけあい、車内放送をしました。

**「皆様、この列車にモンロピアの病院へ行く日本人学生が乗っています。彼女は病気です。ワシントン鉄道省に電報し、会議したら、臨時停車せよということになりました。明日一番に停車するのはロスではなくモンロピアです。」**

その夜、車掌さんは重い荷物を降車口に運んでくれたそうです。

翌朝モンロピア駅では、窓という窓から人々の顔。名刺やメモ、お礼を渡す人、……

彼女は涙で視界が見えなくなりながら列車を見送ったそうです。

その後3年の闘病生活の間、多くの見舞客が訪れてきたそうです。それはあの列車の乗客でした。さらに、入院に掛かった莫大な費用は、知らないうちに誰かの手によって支払われていました。

病気の女性、留学生仲間、車掌さん、鉄道省の人、乗客……いろんな人のそれぞれの出会いがありましたね。私たちもそれぞれの素敵な出会いをたくさん作っていききたいですね。

